

令和7年度 第3回八潮市外部評価委員会 議事録

開催日時	令和7年11月26日(水) 午前10時00分から午前12時20分まで	開催 場所	八潮市役所4階大会議室 八條公民館会議室2
出席者 (敬称略)	委員長：服部 清二 委員：若尾 岳志 清水 努 齋藤 洋子		
欠席者	委員：所 真紀子	傍聴 者数	0人
審議内容及び審議結果の概要	令和7年度第3回八潮市外部評価委員会 1. 開会、あいさつ 2. 議事 (1)外部評価 ①八潮市立八條図書館・八條公民館(現地視察)【社会教育課】 ②八潮市立八條図書館・八條公民館(指定管理)【社会教育課】 ③備蓄物資整備事業(事務事業評価<再評価>)【危機管理防災課】 3. その他 4. 閉会		
提供資料	1. 資料1: 令和7年度第3回八潮市外部評価委員会次第 2. 資料2: 令和7年度第3回外部評価委員会年次事業・事務事業評価シート 3. 資料3: 令和7年度第3回外部評価委員会外部評価シート 4. 資料4: 外部評価全体に対する意見記入シート 5. 参考資料1: 八潮市立八條図書館・公民館参考資料 6. 参考資料2: 令和元年度八潮市行政評価における外部評価報告書(抜粋) 7. 参考資料3: 令和7年度第3回八潮市外部評価委員会タイムスケジュール		

【議事詳細】

令和7年度 第3回八潮市外部評価委員会

1. 開会、あいさつ

2. 議事

(1) 外部評価

番号・事業名	八潮市立八條図書館・八條公民館	担当課	社会教育課
年次事業評価 に対する主な 質問等	<p>(1) 市側と指定管理者側でそれぞれ図書館長がいるのか。 →お見込みのとおり。直営の八幡と指定管理の八條のそれぞれに図書館長を置いている形である。</p> <p>(2) 維持管理費について、直営の最終年度である平成24年度と比較すると、令和5年度、令和6年度は圧縮されているように見受けられるが理由は。 →現在の指定管理事業者であるヤオキン商事は施設管理部門を自前で持っているため、そのノウハウによって維持管理に係る経費が抑えられているものと思われる。</p> <p>(3) 活動・成果指標において、学校への出前おはなし会の実績が減り、教室・講座の実績が増えているが理由は。 →学校への出前おはなし会の実績が減ったのは、学校の行事等と偶然にも予定が重なることが多く、調整がつかなかったことによるもの。教室・講座の実績が増となったのは、指定管理事業者が2年目となり、八潮市でのニーズが把握できたため、教室・講座の件数を増やすとともに、大きなイベントを開くことで受講者数の増につなげることができたため。</p> <p>(4) 職員の確保について、臨時職員が14人配置されているとのことだが、正規職員より短い時間で雇用しているパート職員のようなものか。 →勤務シフトを組む上で、正規職員を補うための職員で、4～7時間の勤務時間で雇用しており、駅前出張所の図書窓口にも配置されている。</p> <p>(5) 20人の職員は八幡図書館、八條図書館、駅前出張所の図書窓口配置されているのか。 →八幡図書館は直営のため、指定管理者側の職員の配置はなく、八條図書館と駅前出張所図書窓口配置されている人数の合計である。</p> <p>(6) 利用者の満足度は高いが、教室・講座の講師側の満足度や意見等はないか。 →講師にアンケートは取っていないため具体的な数値はないが、ご挨拶した限りだと喜んで来ていただいている方が多い印象を受ける。また、指定管理者がヤオキン商事になってから、まずは集客のために教室・講座に力を入れており、講師料も高めに設定していると伺っている。</p> <p>(7) トラブルがあった場合はどのように対応しているのか。 →トラブルがあった場合は、初めに指定管理者側で対応することになるが、市側もリアルタイムで報告を受けており、大きなトラブルの場合は、市の職員も駆けつけることができるような体制はできている。</p>		

- (8) 苦情件数が5件とのことだが、具体的にどのような事例があったのか。
→カウンターで貸出カード作成を希望する方に対し、職員が必要書類を提示するよう求めたが、その際の職員の言い方がもとでトラブルになった。
- (9) 利用者の年齢層は。
→入館の際に年齢などを記録しておらず、アンケートの回答者の年齢だと60代～70代が多くなってしまった。ただ、親子連れの来館者や中高生の利用者も増えているように感じている。
- (10) 指定管理者の自己評価表の中で、「図書館の資料につきまして、以前の指定管理者による管理が十分ではなかったため、劣化が進んでいる状況です。」と記載があるが、なぜそのような状況になったのか。
→前事業者において、見逃しや報告漏れがあったのかもしれない。
- (11) 前事業者から指定管理者がヤオキン商事に変更になって、一番良かったと思う点は何か。
→イベントの実施に強みを持っており、ネットワークやノウハウがあるため、大きなイベントも開催できる点。
- (12) 入館者カウンターが2年間で2回変更したとのことだが、入館者カウンターとはどのようなものか。
→入り口に設置して入館者数を記録しているもの。図書館システムと連動しているが、故障したため変更することになった。
- (13) コロナ禍以降の来館者数の増減はどうなっているか。
→コロナ禍で減った来館者は戻りつつあるため、イベント等の開催を通じ、図書館に行く習慣をつけていただけるような取組を行っている。
- (14) 指定管理者はどのように決めているのか。
→指定管理者候補者選定委員会において、プレゼンテーションを行ってもらい、金額だけでなくサービスの内容等も含めて審査し、決定している。
- (15) 本の不正持ち出しなどのトラブルはあるか。
→図書館入口に不正持ち出し防止の装置があり、貸出の処理をせずに通ると警告音が鳴るようになっている。装置を設置してから不正な持ち出しはほとんどない。

番号・事業名	備蓄物資整備事業	担当課	企画経営課
<p>事務事業評価 に対する主な 質問等</p>	<p>(1) 令和7年度予算が増加した理由は。 →能登半島地震の被災自治体へ提供した救援物資の補充、防災備蓄倉庫の修繕、マンホールトイレに係る資機材の購入等が主な要因である。</p> <p>(2) マンホールトイレとはどのようなものか。 →下水道の耐震化が完了している学校の屋外にあるマンホールに、簡易便座等の資機材を設置することで災害時にトイレとして使用が可能になる。</p> <p>(3) 想定被災者数はどのように算出されているのか。 →埼玉県防災計画の中で、八潮市の人口だと4,545人となっている。</p> <p>(4) 想定被災者数に帰宅困難者は含まれているのか。 →含まれていない。地域防災計画の中で八潮市民が市外に滞在し、帰宅困難となる想定者数を8,094人としている。</p> <p>(5) 八潮市外の在住者が、八潮市内で帰宅困難となる想定者数や対応は。 →市外在住者の帰宅困難者の想定者数の数字は持ち合わせていないが、鉄道の運行状況によって大きく左右されるものと思われる。多くの帰宅困難者に対応できるよう、八潮駅前のメセナ・アネックスや、協定を締結しているタウンインドアテニスアカデミー八潮駅前校で受け入れられるようにしている。同様に、東横イン八潮駅前でも宿泊場所の協力を得られるよう協定を結んでいる。</p> <p>(6) 令和元年度の予算と比較すると、令和5年度決算や令和6年度決算は大きく増加しているように思われるが、その理由は。 →マンホールトイレの資機材購入等が理由と思われる。</p> <p>(7) 帰宅困難者用の備蓄品はどの程度あるのか。 →食糧1,400食、ビスケット2,520袋、飲料水720本、投光器2台、蓄電池2台、その他毛布等を駅前出張所に保管している。</p> <p>(8) 八潮市の昼間人口は。 →(企画経営課回答) 令和2年度の国勢調査によると、人口は93,363人、昼間の人口は87,711人で人口比率は約94%となっている。</p> <p>(9) 目標達成度の評価の判断理由に、「3日分の食糧を備蓄することを当面の目標」との記載があるが、今後増やしていきたいなどの展望があるのか。 →記入時点では備蓄計画の見直しを図る認識があったのかもしれないが、「当面」という言葉に特段の意図はない。</p> <p>(10) 八潮市内に留まる帰宅困難者の想定者数を計算していないのは、その必要性がないと判断しているからか。 →必要がないわけではないが、想定者数を算出するのが難しく、また、埼玉県の備蓄目標で1.5日分となっている被災者用の食糧を3日分備蓄しているため、その中で工面できるものと考えている。</p> <p>(11) 食糧の備蓄は不足しないのか。 →災害時に備えた食糧備蓄は、市の食糧備蓄のみならず、市民が各々で備蓄している食糧、市が補助して自主防災組織に備蓄してもらっている食糧、他自治</p>		

体や民間からの救援物資なども含めて一体に取り組むことを想定しており、市でも自助・共助・公助で協力して非常時の備えを行っていくことを啓発している。

(12) 県道松戸草加線の陥没事故の際も備蓄品を提供したのか。
→陥没事故の際も避難所で備蓄品を提供していたが、民間事業者にも協力していただき、温かい食事の提供も行っていた。

(13) 新庁舎に移って備蓄品の保管スペースは増えたか。
→保管スペースは減った。